

第4章 長期的に目指す姿

本計画では、各施策の意味合いや重要性を明確化し、市民・事業者・行政といった各主体が共通の目標を持って地球温暖化対策に取り組むことができるよう、将来的に目指すべき姿の具体的なイメージを設定しました。

< 相模原市における 2050 年の姿 >

ライフスタイルの低炭素化が進み、平均気温は現在と比較して2 程度上昇し、必要な適応策を実施している状況にあって、今世紀後半の脱炭素社会を目指した取組が進行中

建物・暮らし	<ul style="list-style-type: none">● 新築・既築問わず、厳しい暑さに対応できる断熱性能等を大幅に向上させ、高効率な空調・給湯設備が導入された建物(ZEH、ZEB 等)が普及している。● 自然エネルギーを活用した空調設備が一般的になり、加えて風の抜ける建物が普及し、電力に頼りすぎない生活ができています。● 低炭素ライフスタイルは当然のこととなり、省エネルギー・省資源を選択する行動や製品・サービスが主流となっている。
移動	<ul style="list-style-type: none">● ガソリンだけで走る自動車はほとんど販売されておらず、低炭素化した電力や再生可能エネルギー等により作られた CO₂ フリー水素を用いる次世代クリーンエネルギー自動車が主流となっている。● 公共交通機関でも電動化・燃料電池化による低炭素化が進むとともに、モーダルシフトの進展や AI・IoT(モノのインターネット)の活用によって人や貨物の移動は合理化されて利便性が高まり、渋滞は滅多に発生しない。● 都市部では、都市機能の集約化とともに徒歩や自転車による移動が定着している。
産業・ビジネス活動	<ul style="list-style-type: none">● AI による気象予測の精度が格段に向上し、天候に応じた生産調整や電力・エネルギーの需給バランスの平準化・最適利用によって、産業部門のエネルギー消費量が大幅に低減している。● CO₂ フリー水素が安定的に供給され、産業用設備の燃料電池化(FC フォークリフト等)が主流となっている。● 仮想発電所(VPP)など、分散型エネルギーに関するビジネスが本格化している。● 投資家や消費者の意識が高まったことにより、再生可能エネルギーの利用や省エネルギー対策に積極的に取り組む低炭素で持続可能なビジネススタイルが定着している。
地域・都市	<ul style="list-style-type: none">● 都市部では、都市機能の集約化と水辺や緑地といった自然資本を活用した街づくりが進み、ヒートアイランド現象は緩和され、快適性が向上している。● 中山間地域では、適切に管理された森林から産出されるさがみはら津久井産材の需要が高まり、林業が活性化している。● 太陽光発電や EV(電気自動車)・FCV(燃料電池自動車)など分散型エネルギーの利用を最適化するプラットフォームが実装され、発電コストと購入電力価格の等価(ストレージパリティ)が達成されている。● 地域ごとに自立した分散型エネルギーの導入が進んだことで、災害時にも必要なエネルギーを迅速に供給できる安全・安心な地域社会が構築されている。● 気候変動の影響による被害が最小化され、自然災害に対して、迅速な回復が可能な強靱で持続可能な社会が構築されている。



本計画(2030 年の目標と施策)の達成



【コラム】 2050年の天気予報 「低炭素未来社会」と「なりゆき未来社会」

2050年 低炭素未来社会の天気予報
 2050年7月20日、今日の相模原は快晴、日中の最高気温は31、熱中症指数は上から2つ目の「**厳重警戒**」、降水確率は午後4時の時点で40%です。高齢者の方は不要不急の外出を避け、涼しいところでお過ごしください。お出かけの際には**厳重な熱中症対策と雨具のご準備**をお忘れなく...

2050年 なりゆき未来社会の天気予報
 2050年7月20日、今日の相模原は快晴、日中の最高気温は40、熱中症指数は最高レベルの「**危険**」、降水確率は午後4時の時点で40%です。夕方にはとこによりこれまでに経験したことのないような豪雨にみまわれることが予測されています。運動や野外での作業は**原則中止**とし、午前中の早い時間帯に用事を済ませ、不要不急の外出は**極力避ける**ようにしてください...